

# フェロモントラップを用いたマメシクイガの防除適期の把握

加進丈二（宮城県古川農業試験場）

マメシクイガは、北日本のダイズ栽培における重要な子実害虫であり、連作を重ねると甚大な被害に至る場合がある。防除効果を安定させるためには防除適期である「産卵盛期～孵化盛期」を把握して適期防除につなげることが重要である。本研究ではフェロモントラップを用いた成虫のモニタリングによって防除適期を把握する方法について検討した。

## ＜従来法との比較＞

試験場内のダイズ連作ほ場において、フェロモントラップと従来法であるたたき出し法により成虫の発消長を調べた。その結果、発生期間や発生のピークは両手法で概ね一致することを確認した。

## ＜発生時期の年次変動の把握＞

試験場内の3か所のダイズ連作ほ場において、フェロモントラップによる成虫の誘殺と莢への産卵の消長を調べた。成虫の発生盛期やその後に現れる産卵・孵化盛期は年次変動が小さく、成虫発生盛期から産卵盛期までの日数は0～3日、成虫発生盛期から孵化盛期までの日数は10～12日であった。

## ＜発生時期の地域間差＞

宮城県内のダイズほ場（16ほ場）にフェロモントラップを設置して成虫の発生調査を行った。その結果、成虫発生盛期は最大で約2週間の地域間差が認められたが、その多くは概ね8月第6半旬～9月第1半旬にあることが分かった。近隣の地域でも発生盛期が異なる場合があった。また、作付け品種の早晩性と発生時期との関連性は認められなかった。

## ＜まとめ＞

フェロモントラップによるマメシクイガの発生調査は、成虫のモニタリング法として有用であると判断できた。成虫の発生時期や産卵時期は年次変動が小さく、発生期間を通じたトラップ調査を1年実施すれば、翌年以降は防除適期（成虫発生盛期から10日間）の設定が可能である。宮城県内におけるマメシクイガの防除は概ね9月上旬が適期と考えて、被害が大きい地域では防除時期をよりの確に設定するためにもフェロモントラップによるモニタリングを行うとよい。



マメシクイガの子実被害



トラップで捕獲された成虫